

# やいた未来ミーティング（子育て世代）会議録

日 時：平成30年12月18日（火）

13：30～15：33

場 所：矢板市生涯学習館

出席者：市長

手をつなぐ親の会 15名

1 開 会 19：01 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

認定こども園で意見交換会した際にも障がいのあるお子さんの療育などで話を聞かせてもらったが、矢板市は人口3万3千人の小さなまち。障がい者福祉のための地域資源が非常に足りない。例えば、地域の障がい者福祉に係る人材で、施設事業所の数、サービスの内容などは宇都宮市辺りに比べると少ない。ただ、小さいまちだからこそ小回りをきかせて、お互い役割分担と連携をやっていければ、力が発揮できるのではないかと思う。

3 意見交換テーマ

「子育てしやすいまちづくり」

市長

障がい者が暮らしやすいまちは、全ての市民の方にとっても暮らしやすいまちになるのではと思っている。私が感じたのは、障がいのある方、いろんな障がいの特性だったり程度があると思うが、いろいろ気を回すことによって、まち全体の優しさというか、気が利くようになることで障がい者理解という取り組みを進めていけるのではと感じた。

単にバリアフリーでエレベーター付けるとかスロープをつけるとかという話だけでなく中身の話し。心の中にまで関わっていけるようになればいいなと思っている。

「りんごの木」で地域活動支援センターの設置に向けて取り組んでいるが、本来は市町村が行うべき活動。その中で障がいのある方の日中活動の場というのがどうしても無い。たぶん働ける方は福祉的な就労は別にお金を稼ぐことだけではなくて、社会の中に入って自己実現と社会の一員として働くということ。そんな場が今まで矢板にはなかったと思う。多様な日中活動の場の一つとして就労の場が必要なのかなと思う。

保護者⑤

地域活動支援センターはあまりどこも聞かない。どこの施設もやりたがらない。私が欲しかったのは、地域の人と繋がる場所。この場所が地域活動支援センターだけだと障がい者だけになってしまうので、この場所にはカフェもある。普通の人も食べにくることで社会との繋がり、地域の繋がりが持てる場所にしたい。

先ほど市長も言っていたが、障がい者が住みやすいところはまちの人も住みやすい。

その逆に、まちの人が住みやすいと障がい者の人も住みやすい。そうしたらどうした

らいいかという、みんなで良くしていかななくてはいけない。

私が思い描くのは、小さいうちから私たちが教えるのではなく、みなさんのお子さんがまちの中にも、「どこどこの誰ちゃんだよ」と地域の人知っている。「だれだれちゃんはフラフラしているけど車にはぶつからないよ」みたいに、みんなに知ってもらえるようにしたい。小さいうちから、小学校、幼稚園、保育園の時から私たちも外にでないといかないと思うが、健常者の子にとって、その経験が大人になっても活かされると思う。市長が言ったように、障がいを持った子どもが地域に出ることで、子ども達に優しさが身についていくと、矢板は未来が明るくなるし、誰にとっても住みやすいまちになるのではと思う。

#### 保護者④

私はもう子どもをおおっぴらに外へ出していた。近所の人でいつも無愛想な方だったが、小さい頃に息子が外に出たのが分からなくて、あわてて外へ行ったら、その方が息子の名前を呼んで追いかけてくれた。お礼を言ったら、ニコッと笑ってくれて、見てくれているんだなと思った。また、下の子が小学校3年の時に友達に「お前のお兄ちゃん気持ち悪い」とみんなの前で言われて帰ってきた。「言われてどうしたの？」と聞いたら、近所の女の子が「気持ち悪くないって！普通の子だよ」と言ってくれた。分かってくれている子だったので、「気持ち悪くない」とか「悪いことしない」と言ってくれるのですごくありがたい。隠さないで外に出たのが良かったのかなと凄く思っている。

#### 保護者⑥

自分の妹が、体験としてボランティアに行ったことについて人権の作文を書いたが、こういった事は身近な街角ではみられないのは凄く残念。普通の人にふれてもらい、分かってもらえれば怖いものみたさではないが、見て見ぬふりされないのになということも妹がちょっと言っていた。

#### 保護者④

特別支援学校では、小学部の時から自分が通うはずの小学校に交流へ行く。低学年の時は1年に1回行っていた。給食なしの2～3時間。それが高学年になったら、忙しくていつか分からないと言われた。

やっも行けても1時間位と言って、当然親が送り迎えしなくてはならない。小学校に連れて行って1時間。特別支援学校の先生も来てくれて1時間して、また先生は帰り、私は子どもを学校まで送っていく。大田原は年に何回もあるし、給食も食べて1日過ごせる学校もある。

#### 市長

事実関係を確認する。

#### 保護者④

中学校に上がってからは言われていない。特別支援学校の先生も忙しい中、こちらが希望してるいる小学校に話をしてくれた。でも、忙しいからダメとか。

#### 市長

今の方法なのか、少し時間に余裕のある時に交流会をすとか、いろいろ手法はあると思う。

#### 保護者④

1年に1回、地域の同級生に会えるというのが凄く嫌だと思って。こっちが無理やり  
いっているようで・・・。

市長

そういう気持ちになりますよね。

保護者？

私も5、6年生のときに、今まで年に2～3回の地域校交流が1回しか出来ないと急に  
言われた。3回が2回になり、1回になり校長先生と話をしたが、理由は他の盲学校  
の人も来るからと言われた。

保護者？

うちは授業が合わない。学校の行事、催し物があって忙しいと言われた。

市長

まずは役所的な制度として、交流がどの程度確立されているのか、学校側は今までサ  
ービスにやってきたかどうかを確認しなくてはならないのが1つ。後は、特別支援学校  
は県立。小学校は市立と縦割りなところが多少あって意思疎通が上手く図れない。

教員も普通学校の人が特別支援学校に行く、特別支援学校の先生が普通学校に行くの  
は最近。ここ何年かでようやく、教員同士の交流も始まってきたので、まだまだ不十分  
なところがあると思う。

小さいうちからの障がい者理解については、まさにその通りだと思う。富屋特別支援  
学校鹿沼分校は鹿沼西中と一緒にあって、障がい者理解の取り組みを一生懸命やっ  
ていることもあるが、校舎一体型で特別支援学校と公立小中学校一緒にするというのは  
なかなか難しい。

那須特別支援学校は遠いか？

保護者？

遠い。

市長

特別支援学校で大きいのは？

保護者？

那特は三番目。

保護者⑦

高等部が増えて校舎が足りない。教室が足りなくなっていてずっと続いている。学区とし  
ては矢板が一番南になる。

保護者⑧

私は学校へ行くのに30分以上かかる。また矢板市内には実習先が無い。那特は大田  
原市・那須塩原市・那須町にたくさんの実習先があるが、そこに行くには40分から1  
時間。子ども達も移動で疲れてしまうので実習に行っても身につかない。なんか落ち着  
かない。さくら市の事業者なら20分で行ける。

保護者⑧

私の子どもは障がいはあるが体は健康。背も高いし馬力もある。軽作業もやればやれ  
る。ただ大きな声が出る。そうなると行ける事業所も限られてくる。軽作業はできるし、

手先も動く。でも、大きな声がでたり時間にうるさいとかという特性を考えた時に、行ける事業所が少ない。この無駄なパワーをどうやって使っていこうか悩んでいる。

思春期の男の子なので、距離感がつかめず女の子に近寄って行ってしまったりとか。通報されてしまうのではないかと心配があるので。やっぱりちょっと難しい。地域の方に理解されてもそこはダメだろうと・・・。

#### 保護者⑦

今日これられない那特の保護者の方に話を聞いてきた。小学生になると育てるのに精一杯で先が分からない。18歳から先どうしたらいいか全く見えない。行き場が無い。卒業したら矢板市内に何があるだろう。日中一時支援の制度を使って行くしかない。

親が体調を崩したときにどこにいけるんだろうなど、小さいうちから気にしている。自分は、小3の息子が下にいるが、そちらにも目を向けなければいけない。そういった時に自分は身体が壊せない。19時、20時に夫が帰ってくればどうにかなるが、デイセンターは18時で閉まってしまう。

#### 市長

那須特別学校は知的の学校となっておりますが、野沢まで通えないお子さんとか。

#### 保護者⑦

那特は総合です。

#### 市長

総合だとなおさら。私が県職員の頃は知的の学校がベースにあって、身体は野沢で、病弱は岡本と足利みたいな時代だった。その頃から那須塩原とか大田原からとても野沢まで通えないので、身体のお子さんでバリアフリー化も早急に進めなくちゃいけないが一つと、重複のお子さんもいるので那須特別支援学校の役割は増しているんだろうなど。ただそれに対して校舎や、場合によって設備みたいなものは多分追いついていない。

県の話しになってしまうが、片岡からだとな南那須の方が近い。氏家は民間事業者の層が厚いなど課題として受け止めたいと思う。

放課後の過ごし方では、放課後デイの利用者は増えている。学童保育の方では少し迷惑するかなという方たちが利用している。障がいがあるお子さんが学童に準ずるような形の放課後預かり、日中預かりみたいなものができればと思うが、出来ても矢板市に一箇所だと思う。しかし人材がいない。人材不足は介護現場、保育所、幼稚園もだが、そこを地域の方たちで多少なりとも補っていけるような仕組みを作っていくと難しいかなと思う。

私が死んだら、病気になったらという話があったが、親亡き後の介護のあり方も市として考えないといけないと思う。国のスタンスは施設福祉から在宅福祉。高齢者も障がい者も変わらない。できれば施設入所の定員を減らして、グループホーム、ケアホームでもいいから地域で共同生活など、地域へ出していくとなっている。

しかし、親が亡くなり、在宅の方がグループホーム、ケアホームと言われても経験がないので、施設入所の定員もある程度作らないとカバーしきれないのではと問題意識としてはある。

## 保護者①

親亡き後は地域で。と話があったが、地域のみんながお互いに心を繋げていけないとできない。まずは気持ちが一番大事だと思う。障がい者のことを、きちがい・馬鹿だという人がいる。家にそういう子がいるのをわかっていても悪気がなく言う人がいる。これがまだ矢板の現状。これを変えてもらいたいのが一番の願い。

市長が言ったように90歳の親御さんが二人で亡くなった。学校にも行ったことがない。70歳の息子さんが施設ももちろん、サービスも使ったことがない。お母さんとしかご飯を食べてことがない。お父さんとも食べたことがない。そのお母さんが亡くなったら誰からも受け付けない。家はあるけどどうしよう。といったことは矢板でも、似たことがいっぱいある。それを救っていくためには、器も必要でグループホームまで出来ないのであれば、アパートを市で借り上げて、介護の人も入り、いろんなものに使えるようなものを将来的につくってほしい。

## 市長

地域活動支援センターの計画もあるが、就活の場だけではなく、夜も過ごせるような障がい者版のショートステイとかが必要かと思う。

皆さんの具合悪くなってしまった時に、子ども達はどうしているのか。

## 保護者④

近所の知っている方に駅まで送り迎えしてもらった。

## 保護者？

特別支援学校行く前に小学校2年生まで地元の学校を行かせていたので、地域の人に分かってくれる。

## 市長

子ども達の障がいを知ってもらうことも重要だが、先ほどの話のように、家でしかご飯食べたことがない、サービスを受けたことがないなどは、今から備えをしないといけない。

## 保護者？

親がもし片方でも亡くなった時は、仕事への送迎もできなくなる。

## 保護者①

支援の人ともすぐに心は繋がらないので時間が必要。うちはよそ者なので誰も助けてもらえる人がいない。「静かにして」と言ってもできない。会議でもお葬式でも連れて行かないといけない。娘もTPOを少しずつ学習はしていく。プラスマイナスはあるが、それも性格でできない親御さんもいっぱいいる。平成10年に日中預かりが出来た時、真っ先に、何かあったときに困ると思って利用した。誰かがみてくれていると、そのサービスがあって利用しない。困った時はいつ起きるか分からない。市もこういう風な形に向かっていますよ、というのを、ある程度見えるような形にしてもらえれば、私達も頑張りがいがある。

## 市長

地域自立支援協議会でも語られている地域生活拠点構想に話していただければ。

## 保護者？

緊急の24時間体制の預かる場所、働く場所、地域との交流、デイなどいくつか条件

がある。各地域でつくって下さいと。器がなければ面的なサービスを組み合わせて、それに準ずるものをつくりなさいと。平成33年までに。タイムリミットがあと3年。自立支援協議会でもいろいろ見学に行ったりした。事業所にお任せではなく自立支援協議会の中で準備委員会を作りたい。

市長

自立支援協議会の中でも話し合いはしたのか。

保護者？

事業所と違うメンバーが入って、準備委員会というものを立ち上げ、地元ではこういう要求があるとお願ひできないかと話し合いをして決定した。

意見を精査して上に行くと思うが、なかなか声が出ないし、本音を言ってもらえない。「こんなこと言っているのかな」というところがあったので、これからは変えてもらいたいと思う。

市長

地域生活拠点については最近の制度なので私も詳しくはないが、ハードルは結構高い。多機能というのが売りで、24時間預かり、就労、地域との交流は必須事業的な形でやらなくてはいけない。1つの事業所のみではなく、複数の事業所が一堂に会して行くような形で役割分担と連携をしていかないとけない取り組みだと思う。

地域生活拠点の事業については、国と県。市町村の負担はないが、何かやってくれという話しは出てくると思う。

保護者①

自立支援協議会のケア部会で一番の問題は相談員の育成。今、矢板には本当に施設がないので、施設で経験を積んでないと相談員が育たない。矢板はりんごの木とたかはら学園しかないので、相談員さんがいない。採っても相談員さんが実働しない。

相談員が増えないと皆さんのサービスを運営できる人、ちゃんと受けられる人がいないので、24時間体制が出来ても役に立つ職員さんがいない。私たちも一生懸命に声をかけるが、市からも来年度までには、施設で相談員さん必ず一人受験させて機能させて下さい、ということを押して欲しい。

矢板市の地域包括支援センターのために一番大事なので、協力をお願いをしたい。

市長

相談支援の役割は非常に大事になってきているが、人材が育ってこない。育てなくちゃいけない部分もあるが、高齢者福祉でも主任ケアマネがない。研修だけではなくケアの経験があつて、相談支援のスキルがある人はどうしたらよいか。資格があればいいんじゃないと思う。

保護者①

年数も必要、経費も必要。矢板の相談支援員ほど変わる地域はない。夜勤もあつて、相談支援のお金にならないところに何回も行って、相談員してペーパー書いて、全部打ち込んで本当にハードスケジュール。でも、お金にならないから体はきついけど夜勤もやる。その状態で相談員を作る施設にしてみれば、支援員は一人少なくなるし、研修に出せばまたそこで少なくなる。経費も掛かるし本当に大変。でも相談員がいないと箱物造っても絵に描いたもちになる。

市長

相談支援員の報酬。ケアプラン立てたら報酬取れるのでは？

保護者⑤

最初、中間、最後しか報酬はない。面談の回数はあるが0円。事業所としてお金が貰えない。

保護者①

親御さんたちもこういうこと知らない。必要な人はこれだけ不足している。頑張っている方は本当にわずかな収入で沢山抱えて、わずかな人が動いている。それがないと私達サービスを受けられない。

市長

特別支援学校の子育て終わった皆さん方、相談支援専門員挑戦してほしい。

保護者⑦

時間とか制約されてしまうと働く場所がない。そのために子どもを預けるようになる。出来れば10時から15時くらいまで。やりたくても探してもない。

市長

逆に皆さんやってくればペアレントサポートとか、そういったものが出るのではないのかなと思うが。

保護者①

24時間で本当に何が起こるか分からない子ども達を抱えている。うちの子は1時間くらいなら留守番はできるが、季節の変わり目に留守番をさせた時、扇風機とストーブが家の中で両方ついている。密閉した中で両方ついているので何が起こるか分からない。

市長

生活拠点に限らない話しだが、24時間やってくれる、夜勤もいとわないという人がこれから増えるかという増えない。今ある環境の中でどうやって工夫、分かち合いをしていくか、9時からだということであれば、矢板は10時からにしてもいいだろうし、そういったところもみなさん方の知恵というか。

保護者①

24時間で支援員が少ないとか言っているが私たちは子育ての経験がある。一般のお子さんたちの送迎とかのファミリーサポートなら。障がい者のボランティア育成をしているが、そこへもう一步踏み込んだサポートの育成とか私達親が、ちょっとの時間を使って送迎してあげるとか。助け合いのようなものを。

市長

ファミサポの障がい児者版。

社協

障がい者、健常者は分けてない。

保護者①

障がい者用の時間枠で研修とか体験だとか、認定を降りるものやってもらえれば、参加しようとするお母さんたちは少しずつ増えてくる。自分たちの仲間のためにだったらメンバーも分かっているし、相手も聞く耳もってくれる。そういうのを今後のためにやっていただきたい。

社協

ファミサポの講習会は年に1回。そういういくくりはしたくないが、皆さんの都合のいい時間にやる考え方でいいのか？

保護者①

そういうものを作ってもらえれば。今後のために少しずつ、みんなに手伝ってもらえる人を増やす。

市長

分けてはダメなのかな？例えば、障がい者のサポートの講座を必須にするとか。そうしないと障がいの特性とか担保が。預かり700円？600円？

社協

600円。土日祝日7時から。7時前や19時以降は700円。送迎は1000円。国の指針でファミリーサポートセンターはやっている。

市長

やるなら市単独事業？

社協

そうですね。ただ、有償ボランティアなので、お金の発生をどうするのか。お礼とを考えると1000円、2000円とか金額を決めた方がいい。ご飯を提供してもらったらいくらとか、迎えに行ったらいくらとか、お互い納得できるのでは。

市長

やるなら分けて。障がいのあるお子さん向け、特別支援学校、特別支援学級在籍くらいで。その代わりサポートする家族はそれなりの経験。少なくとも社協の講座を受講しているとかスキルはなくても話が分かるとか。あとはお金のやりとりをどう整理するか。

保護者⑧

息子がファミサポを利用した時は自閉症だと伝えたので、自閉症を分かってくれている方を紹介してくれた。それをきっかけに知り合いになった。逆に私も何か出来ればと思っているがなかなかできない。

市長

そういう方は多いのか？

保護者⑧

事前打合せの時にお子さんの特性を分かる方をお願いする形でマッチングしたりしている。

市長

これが広がっていけば、逆に皆さんの中でも手がかからなくなったら協力してもらえるような、多世代間の繋がりが出来ると非常にいいかなと。これは宇都宮とか大きいところではできないと思う。矢板みたいなスケールがちょうどいい。そこを伸ばして行ければという気がする。

保護者⑧

小学部のお母さんの意見を聞いてきた。りんごの木、たかはら学園とも遠いと言っていた。



市長

障がい者とか高齢者の事業所は、10年前から考えは変わっていないが、バリアフリーとアクセシビリティの観点から立地には検討すると。バリアフリーは心の物理的な障壁も心理的な障壁もない。アクセシビリティというのは、アクセスのしやすさ、障がい者施設などを造るときには、街なかに施設を造りなさいと。できればこれを施策として、街なかにあって欲しいと思うが、その一方の障がい者支援制度。平成15年に措置制度というのは無くなって、支援費制度になった。10数年前までは保護者の方は選択の余地がなかったが。支援費制度になって、どの事業所を利用するか、どのようなサービスを利用するかも皆さん任せという時代になった。施設を造るのも民間事業者向けになったので、無理に引っ張ってくるわけにもいかない。

保護者①

さくら市や大田原は飽和状態にいるのに、矢板に事業所が来ないというのは何なのか。

市長

やはり商圈設定。スーパーマーケットと同じだと思う。矢板を真ん中にして10キロ圏とか20キロ圏で見ると人がいない。高齢者の事業所だが、片岡に出すと言っている。片岡なら、矢板の街なかをカバーできるし、さくら市も行けるとの話もあるが、福祉の事業所に限らず、宇都宮圏と那須塩原、大田原圏の間にあるということかな。

保護者①

矢板の独自の自慢のまちづくり。誰が市長になってもそこは変わらないと言う。住んで20年になるが少しも見えないと思う。障がい者プランに早くから関わっているが、まちづくりプランと合同になっていない。

市長

合同にはなっている。

保護者①

障がい者の方で全然見えない。

市長

高校生との意見交換会で、矢板を活性化するためと出てきたのは「ラウンド1」が必要だと言う。あとはスターバックス。考え方は一緒で、その中で出来る事は、何かこの規模で最大限効果が発揮できるということ。各事業所のサービスを上手く結びつける。まずは事業所の人たちに理解してもらわないといけないし、その上である程度行政が仲立ちをして連携と役割分担をしていくこれだと思う。それが矢板方式と言われるようになるようなところまできちっと理想をつくって、理想を打ち立ててそこへ向かってきちっと中期長期で計画を立てていくということが必要。

保護者①

今では自転車が流行りだが、たかはらマラソンがある。私も娘を出したことがあるが、運動公園から坂を下ったら登れない。凄く残念だったのは、おもてなしの心が無い。案内とか受付とか、私は来たばかりだったのでこの感じに驚いた。グラウンドを一周するが、ゴールまでアナウンスも無ければ拍手も無い。知り合いがたまたまいて声援を送ってくれて一緒に走ってくれた。今あるものでももっと手厚く、人の良さを見せられるようにするだけでも違うと思う。イベントをやったからいいではなくて、もうちょっと障

害者のものを入れてくれと前から言っている。たかはらの子も出られるし、ハートピック大会に出ていることもある。出られるものをつくって欲しい。

市長

これは障がい者福祉に留まらない話し。2022年には「いちご一会国体」が開催されるが、国体と合わせて全国障がい者スポーツ大会も開催される。どんなスポーツをどんなところでという話しが進められているが、全スポはどちらかというと身体障がい者向け。ハートピックや上にはスペシャルオリンピックとかあるが、これを機会に日中活動の場ということで、中学生、高校生のスポーツは、重要な社会参加の場と思っている。障がい者スポーツはいろいろあるが、フライングディスクでもいいし、ボッチャとか、矢板はこれが強いというようなものがあるといいのかなと。ボッチャは高齢者も出来るので、交流のきっかけにもなる。

保護者⑤

障がい者スポーツの枠もだが、たかはらマラソンの中でも自由に参加できるクラスがほしい。運営的に難しいか？

市長

逆にボッチャとかそういうほうの方が。

保護者⑤

それでは健常者が障がい者に寄り添うかたち。同じスポーツをみんなでする。

保護者①

両方必要だという事を言っている。

保護者⑤

たかはらマラソンも。娘も出たことがあるが、親子は小学校3年まで。4年になるとでれない。

市長

それは全員そうでしょうか？

保護者⑤

体的にも親子で走らないと無理。

保護者①

障がい者枠をつくっていただきたい。

保護者⑤

一緒のコースを走って、そうすればみんな頑張ってるなとみてる。

保護者①

声援をもらえれば。みんなに知ってもらいたい機会。

市長

たかはらマラソンは実行委員会組織で、体育協会の人とか陸上協会が中心なので、すぐには何とも言えない。考えでは障がい者コース1キロとかではなくて、みんなと一緒に走る？

保護者①

1キロでもいい。

市長

障がい者限定1キロではなくてみんなと一緒に走るでいいのか。例えば2キロで障がいのお子さんについては4年生でも5年生でもということか。

保護者①

合理的配慮をしてもらいたい。

年齢で切らないでおじいちゃんも走る。時間差も必要。

保護者の方もご両親も。中学生になって2キロがやっという子もいるので、そんなクラスを作って、みんなの中でやらせてもらえると。

保護者⑨

うちの娘は見た目が普通で近所の人には障がいがあると思われていない。ちょっと変な行動するとどうしたのと言われる。申し訳ないが、見て障がいのある子は羨ましい。一緒にいると全く普通。娘を連れていرونなところに出かけなくちゃ障がいを分かってもらえない。そういう機会があれば。

うちの子は一回だけ全国大会に行っている。見た目が普通なので応援に行っても場所が違うと言われる。地域で何かあるときに連れて行けば障がいがあるんだなと分かって場があると嬉しい部分はある。

保護者⑤

障がい者スポーツだとそれに興味のある人しか来ない。

ボッチャとかになると限られてしまう。何も関係なく走るマラソンは好き。

保護者①

福祉とか障がい者はいつも同じ顔ぶれ。たまたま違うところの団体に行くと新鮮と思うくらい会っている人が固定化されている。私たちがそっち側に行くという機会を沢山つくらないといけない。

市長

障がい者スポーツについては、何かしなければと思う。たかはらマラソンという具体的な話も出たが、実現するかどうかは少し現段階では話ができないが理解はした。

保護者⑮

予算がないといろいろカットされて、クラウドファンディングとかふるさと納税の一部をそういう人たちの為にまわしますと公表して集めるといのは市では難しいか？

市長

例えば、市では12月12日から駅東のフットボールセンターで、クラウドファンディング型のふるさと納税を行う。集まった分は、たかはら那須スポーツクラブに寄付する。障がい者向けなら、具体的な事業計画が必要となる。普通のクラウドファンディングは目標金額まで行かなかつたら全額チャラという話しだが、クラウドファンディング型のふるさと納税は目標金額までいかななくても大丈夫な仕組み。

保護者⑮

お礼の品は障がい者の感謝の何か、個人的に名前を書いて、高いものではなくてよいと思う。ペットボトルだけ集めていたのでは全く足りなくて、市の方に言えば予算がないと切られてしまう。お金として見られるような形で集められれば。

市長

予算が無いというのはみんなに言っている。市が進めて行くのは官公需。障がい者の就労事業所が受ける仕事は増やさないといけない。昨年度は500%増えた。

保護者①

何度も言われているが見えない。残念なことに。

市長

時間もないので、最後に皆さんからひと言。

保護者⑧

もっと、就労施設を増やして欲しい。

保護者？

一般就労できたお子さんがいた時に困っている。うまくいけば税金を納めてくれる。ミスマッチがあって働けていな状況。矢板に住んでいるのに西那須野に働きに行かなくてはならないのという事を聞いたことがある。

保護者？

子ども達が出来そうな工夫が増えてくるといい。自立してより良い給料がもらえる仕事があって、就労Bとか生活支援、介護とかの定員が増えてくれたら嬉しい。矢板市内に。

市長

官公需を増やす話をしたが、例えば、ワークスタかはら市の施設の掃除など。授産製品ではなく、立派なサービス業だと思う。授産科目として、以前は工場の下請けのような仕事があったが、工場は無くなっているし、中国へ行っているし、モノを創らなくなった。一時期どこの授産施設もクッキー作って、それももうありふれている。なにか考えないといけない。

保護者⑥

北海道の地震とかあったので待機する場所などもし決まっていれば。

市長

福祉避難所ですね？

保護者④

今、中学生でスクールバスに乗せてもらっている。小中は義務教育なのでスクールバスに乗せてもらえるが、高等部に入ったら自主通や親の送迎を最近強く言われている。特別支援学校の高等部は乗れないのが基本。那特は席が余っているから乗せてもらっているが、乗せてもらえなくなったら大変だから、市ではどうなのか。

市長

直接県の方。県教委の方へ。高等部だと社会性ということで自力通学という教育的なものもあると思うが。

保護者③

若いお母さん達の話しを聞いて、私達が心配するのは親亡き後というか。施設に入るとも限らない。みんな一緒に子供達を世話してもらえる人にみてもらいながら仲間と一緒にいつまでも親が亡くなってもそういうところで生きて行ける場所があれば。

## 保護者②

今は仕事をしていて、土日仕事なので祖母に頼んでいるが、祖母に悪さをして、腰の骨を折って去年は入院していた時期もあったので、まるっきり預けるのは厳しい。土日預かってもらえる、私が病気になった時も預かってもらえる施設を早急に造ってもらえればと思う。

## 保護者⑭

息子が氏家まで通っている。朝、バスで乗せてあげたいが一人で乗せるのは心配なので朝、仕事行くとき7時10分位に乗せていってしまう。しかし、作業所は9時からしか始まらない。会社の駐車場に8時くらいまで車で待っていて、それから駅へ行って電車を通っている。少し早めに出すぎているので、矢板に作業所をつくってもらいたい。

帰りもやっぱり駅まで迎えに行っている。

## 保護者？

ワークスに行っている皆さんが良く言っているが、親亡き後ということで、グループホームがすごく少ないので、もう少し増えたらと思う。それになるまでも一時預かりをやらせてみたいと思うが、今申し込んでもなかなかできないと聞く。その辺りをもう少し出来るようにお願いしたい。

## 保護者⑫

塩谷町に住んでいるが、福祉関係は何年も矢板にお世話になっている。今日皆さんの子どもに対して考えていることが一緒に勉強させてもらった。

## 保護者⑩

一人で電話もかけられない。何かあった時に、すぐに対処できる短期入所とかを申請しているが、早く予約しておかないと全く使えない。急に病気になった時にすぐに使える施設があればと思っている。

## 市長

障がい児向けのショートステイがあるといいですよ。それが生活拠点なんです。

## 保護者⑩

普通の人より緊急がすごくある気がする。そういう施設があったら。

## 保護者⑨

うちの子は軽度の知的。障がい者枠だが一般企業に就職できた。実習に行っている時に何社も行った。採ってもらえるのかなと思ったら実習だけで採用しないとされた。たまたま今行っている老人ホームで初めての試みで今行っている。矢板の企業がもう少し障がい者枠を増やしてもらって、働ける枠が、収入がいいと思う。ちなみにうちの娘は月に9万円もらっている。将来の為に厚生年金とか払っているので手取りにしては7万。それを使わなければ将来グループホームなりは入れるかなと思っている。

## 市長

企業内の障がい者雇用。例えば鹿沼のJSP辺りはそんなことをきちんとしている。

あとは、鹿沼のソニーかな？

## 保護者⑨

矢板は無い。実習は受け入れるけど就職となれば、うちは身障の方しか取らないとか。知的は扱いにくいから。

## 保護者①

なかなかこういう機会がないので、この未来ミーティングのおかげで、久しぶりのメンバーと新旧初対面の方もいて、私達も勉強になったし、これからもこういうのをやっていたらいいなと思った。皆さん思っているのは同じだと思う。今後、後輩が障がいの子が産まれても、年をとっても生まれて死ぬまでここでここにこ笑って暮らしたいというのが、誰もの気持ちだと思う。そこに寄り添ったまちづくり、それに私達も顔を合わせて話せるきっかけを努力していきたいと思う。今後とも足りないものを少しずつでもお願いしたいと思う。

## 市長

今日は親の会の皆さんと、特別支援学校の保護者の方、なかなか会う機会がなかったということだが、障がい者の親の会は、私が10年前に県で障がい者福祉の仕事に就いているころから高齢化が言われている。やはり声を上げるには、まとまって皆さんが力を合わせないといけないと思っている。それぞれ仕事があったり、家庭の事情があったりするが、他の団体に負けないように、機会あるごとに話し合いをして、よりまとまった形で具体的な提案をしてもらえたらと思う。